

「欧州原材料アライアンス」発足

◆EUが、需要増加が見込まれる重要な原材料の確保のためアライアンスを発足

欧州委員会は2020年9月29日、重要な原材料の戦略的な確保を目指す官民協働モデル「欧州原材料アライアンス（ERMA:European Raw Materials Alliance）」を発足させた。

背景には、欧州連合（EU）が推進している50年までの「気候中立」（温室効果ガスの排出と吸収量の差をゼロにする）によるエネルギー転換や、「デジタル化」による電子機器の増加などのために、特定の原材料の需要予想の高まりがある。

EUは9月9日にはEU初となる「戦略的将来予測報告書」を発表しており、社会経済、地政学、グリーン、デジタルの4つの側面におけるEUのレジリエンスを検討し、今後の課題、能力、脆弱性、機会を特定していた。

EU域外の特定の国への重要な原材料の過度の依存は、地政学的な安全保障上のリスクがある。そこで、欧州委員会は重要な原材料を選定し、持続可能かつ安定的な確保に向けた行動計画を策定した。これに基づき、先行事例の「欧州バッテリー同盟」をモデルにERMAを発足させた。既に、企業、業界団体、自治体、欧州投資銀行、投資家、NGOなど多方面からERMAへの参画が表明されている。

◆中国依存の原材料輸入から、EU域内での循環性向上へ

EUが特に重視する原材料として、たとえばリチウムとコバルトがある。化石燃料からの脱却、再生可能エネルギーへの転換や環境政策を進める上で重要で、電気自動車とエネルギー貯蔵に用いられる。50年までにリチウムの需要は60倍、コバルトは15倍以上と試算する。また、風力発電機などに必要な永久磁石の主要材料であるレアアースも10倍まで増えると見込まれているが、現在は中国からの輸入に依存している。EU域内にもレアアースは埋蔵されており、採掘も検討する。また、電子廃棄物のリサイクルでは、EUは毎年約990万トンの電気・電子機器の約30%が収集・リサイクルされているが、この電子廃棄物からの重要な原材料の回収率は1%未満に留まる。域内での循環性を向上させることで、EUはレアアースに関する戦略的な自立性を包括的に高めていくことを目指す。 【赤山英子】